

令和2年度学校評価(星城高等学校)

建学の精神	彼我一体：報謝の至誠 文化の創造 世界観の確立		
教育目標	“感謝のできる”実践力に富んだ逞しい人間の育成		
今年度の学校経営方針	建学の精神を具現化した生徒像が「“感謝のできる”実践力に富んだ逞しい人間」である。そしてその育成の中心になるのが「4つの柱」である。この観点に立ち、今年度の経営方針を「4つの柱」(礼節、進学、スポーツ、国際交流)の着実な進展とする。その上で「英語の星城」と人々の口に謳われることを目指し、英語の民間検定資格取得にも注力する。またSGL活動の一層の推進に取り組む。本年度は、令和4年度から実施する教育課程の大幅変更に向けた準備の実質的な最終年に当たる。各コースの充実を目指し、全校をあげて改革に取り組む。		
今年度の重点目標	I 礼節の星城      II 進学の星城      III スポーツの星城      IV 国際交流の星城      V 英語の星城 VI SGL活動の推進      VII コース振興の基礎固め		
重点目標	評価項目	担当	具体的方策≪数値目標≫
I	規則正しい生活習慣	仰星コース 第1学年	○日頃から担任による健康管理についての呼びかけや、定期的な個人面談の実施により、生徒のメンタルケアを意識した指導を行う。 《年間出席率98%以上》
	コンプライアンスの徹底 生徒主体の活動	第1学年	○学校のルールや社会的規範を守り行動することを学年集会で理解をさせる。そして、星城高校の生徒として一人ひとりが自ら判断・行動できる生徒に成長をさせる。また、学年リーダーを決め、級長とともに集合時間の徹底を行う。 ○級長・副級長の中から学年リーダー・サブリーダーを選出し、学年行事の運営や、集会時の整列指示・身だしなみの確認を促す。 ○1学年での級長・副級長会を実施し、上記内容が円滑に行われるよう、話し合いを行なう。場合によっては助言を行う。 《学年集会・式典において、リーダー・サブリーダーの指示で、11クラス中8クラス以上が、5分前に集合完了する》
	自分たちで動くことのできる 集団の育成	第2学年	○級長・副級長を中心に、生徒たちが自ら行動できるように指導する。級長会を定期的に開催し、級長発信でさまざまな行動を促す。コースリーダーを選出し、各種行事においてリーダーシップを発揮できるよう指導する。 《級長会を年間5回以上(1学期2回、2学期2回、3学期1回を目安)実施し、常にクラスの代表である自覚を持たせる》
	自己抑制と他者意識の醸成	第3学年	○校外内における生活全般について、社会規範に則って行動ができる自己形成を目指す。他者がどう感じるか、他者にどう映るかを意識して発言や行動ができる生徒の育成を目指す。 《個人面談を年3回以上行い、自己を振り返らせるとともに、適切な振る舞いや言葉遣いについて指導する。》
	自修的努力の育成	仰星コース 生徒指導部	○日々の担任指導やロングホームルームなどの指導を通して、生活面で的人格形成において高いレベルを目指す仰星コース生徒としてふさわしい自修的な努力を育成する指導を促進していく。 《年度後半に生活態度評価規準を作成し、担任が仰星コース生徒としてふさわしいと評価する生徒が全体の8割以上》
	交通ルール遵守 マナーの向上	生徒指導部	○愛知県警愛知署主催の「200日間自転車無事故・無違反ラリー」に参加し、交通ルール遵守を喚起していく。あわせて、このラリー期間中に、歩行通学者に対しても交通安全とマナーを喚起していく。 ○全国交通安全運動期間、本校自転車通学指導週間では、安全利用五則の徹底を図る。 ○各学期の始めに、生徒指導部から交通安全とマナーを啓発する言葉を発信していく。また、教頭・主幹の協力を得ながら、校門などで生徒へのマナー向上を啓発していく。 《200日間自転車無事故無違反ゼロ達成・歩行通学者無事故無違反ゼロ達成 ※生徒が第1当事者ではない事故は除外》
	健全な心身の育成	生徒指導部	○各学年で実施する教育相談部講話の内容を充実させる。第1学年では、性的少数者(LGBT)への理解を深めることを目指す。第2学年では、異性との関係にどのように向き合えばよいかを理解し、興味本位ではない正しい性の知識と行動を身につけ、いのちについて考えさせる。第3学年では、人と人との関わりあいの中で、互いを大切にする気持ちと相手を尊重する心を考えさせる。 《各講座終了後のアンケート調査で、90%以上の生徒が理解し、共感できたと感じられるように実施する。》
	地区父母の会における 保護者出席率の増加	総務部	○地区父母の会のイベントの1つである講演会を家庭での教育の指針となり、保護者の研修として役立つものとする。その内容により、地区父母の会の出席率を上げる。 《地区父母の会への保護者の出席率が40%を超える》
	同窓会ホームページの充実	総務部	○同窓会のホームページがより多く更新できるように、同窓会役員と連絡を取り合い、校内での同窓会の出来事をブログ形式で発信できるよう、学校から同窓会への記事の提供方法等のシステムを構築する。 《同窓会に関する記事を年間12件以上提供する》

重点目標	評価項目	担当	具体的方策《数値目標》
	学習習慣の確立と基礎学力の養成	仰星コース 第1学年	○国語・数学・英語の学力バランスを重視し、英語の学力養成として英語検定等を推進し、遅進者に対する個人指導をこまめに行い、不得意科目・項目をできるだけ減らす。 《GTZでA段階以上が各半数以上》
	普通コース「基礎学力の向上」 特進コース「大学進学意識を高める」	第1学年	○全コース1年生では、基礎学力の向上をはかる。朝の10分間学習で基礎を身に付けさせる。 ○スタディーサポートの事前シート・振り返りシートを活用し、GTZの向上をはかる。 ○担任は、データを基に面談を行い、3年後の進学・就職に向けた指導を行う。 《特進・アストGTZ:A・Bゾーン20%以上 普通コースGTZ:Dゾーン50%以下》
	学力をはじめとする人間力の育成と保証	仰星コース 第2学年	○①【基本的な生活習慣の確立】 「生活の記録 ～夢の実現のために～」なる学習・生活記録を、毎日コツコツと真面目に提出させることにより、最低2時間の家庭学習時間を確保することの重要性に気づかせ、かつ継続して物事に取り組む姿勢の大切さを養わせる。 《年間を通して欠かさず生活記録を提出する生徒・最低家庭学習時間2時間確保できるようになった生徒が6割以上になる。》 ○②【進路意識の高揚】 「月々、週ごとの私の考え。」なる個人カルテを用い、毎週様々な進路に関する質問に応えさせることにより、自分の進路に対する意識を高めさせる。時や場合に応じて、LHRや普段のホームルームを利用し、進路に関する情報を多面的に生徒に提供し、進路実現に向けた意欲を喚起し、将来の自分のあるべき姿の目標を設定させる。 《自分の進路について、明確なる大学・学部・学科名と、その難易度、自分の現状での合格可能性が答えられる生徒が6割以上になる。》 ○③【学習習慣の確立→意欲の向上→成績の向上】 今年度から設定された8:45分からの朝学習の時間では、僅か10分間の学習時間ではあるが、時間に遅れることなく、他の迷惑にならず、集中して学習に取り組む姿勢を養わせる。学習内容については「自修的努力」を第一とする。そこそこが「質の高い学習」に繋がる。とはいうものの、生徒の学習に取り組む姿に応じては臨機応変に対応することもある。例えば「10分間で解ける数学の演習プリント」なるものも整えて臨む。そこを学習意欲の向上に繋げる一助とし、成績向上に繋げる。 《「自修的努力」により、時間に遅れることなく、他の迷惑にならず、集中して学習に取り組む姿勢を身に付けてきた生徒。学習意欲が向上し「質の高い学習」に取り組む時間が増え、前回のスタディーサポートと比較して国語・数学・英語のGTZを維持または向上させる生徒が6割以上になる。》 ○④【資格取得へのチャレンジ】 現在取得している資格(英語検定・漢字検定・数学検定など)のワンランク上の級を取得すべく、資格試験に積極的に取り組ませる。 《資格試験に取り組む生徒が6割以上、その中で合格するものが6割以上になる。》
II	進路に向けた学習活動の充実	第2学年	○進学補習や検定試験への取り組みを促す。 《検定試験目標:年間の受験者300名以上》 ○朝の10分間学習から学習に向かう姿勢を養う。GTZ上位層への直接的な働きかけを行い、上位層が牽引する形で各クラスにおける学習意欲を高めさせる。 《本館目標:GTZのDゾーンを50%未満におさえる》 ○生徒一人ひとりの進路目標を明確にしていく中で、大学受験を意識した学習指導に重点をおき、模試の成績に関する数値目標を達成する。 《2号館目標:英数国総合偏差値50以上を30名》
	大学進学指導への注力	仰星コース 第3学年	○模試の成績を分析して、各生徒の志望校の見直しを丁寧に行い、適切な進路目標に向けて学習させる。国公立大学については、第2志望、第3志望まで考えさせ、学力を最大限に生かすよう早期に指導する。また、生徒の成績を全教員で共有し、合格に向けて効率良く指導を進める。 《国公立大学合格者20名以上(旧帝大合格者3名を含む)》
	最後まで学び続ける集団の育成	第3学年	○進学や就職をゴールと位置づけず、卒業後に最善のスタートを切るための準備として学び続ける意識を持たせる。 4月中に「進路プラン」を作成させ、それを都度更新していく形で学びに向かう意識を定期的に観測させ、成長を止めることなく卒業テスト後の追試験ゼロを目標に学習に取り組ませる。 ○特進コースにおいては、最後までワンランク上に挑戦し続ける生徒の育成を目指す。 《特進コース国公立大学合格者10名》
	「主体的・対話的で深い学び」の授業改善	仰星コース 学習指導部	○「主体的・対話的で深い学び」を取り入れた授業を増やすために、主要教科で授業研修を実施して授業改善を進める。 《5教科で、各教科2回以上授業見学を実施する。》
	長期休暇を利用した学力伸長	仰星コース 学習指導部	○長期休業中の学習計画を立てさせ、担任が点検し、より高い学力の伸長を図る。 《80%以上の生徒が、自分の長期休業中の学習計画に取り組めた。》
	生徒の学習習慣の確立	学習指導部	○進学に必要な基礎学力を向上させるために、家庭での学習時間確保を促す。 ①講話や学習・進路だよりで生徒に直接家庭学習の重要性を発信する。 ②教科主任会などで教員に家庭学習時間の情報を伝え、授業等で家庭での学習を促すようにする。 《スタディーサポートにおける学習時間調査の結果において、平日の学習時間「ほとんどしない」が40%以下》

重点目標	評価項目	担当	具体的方策《数値目標》
II	進路目標 実現のための 学力向上	学習指導部	○進学に必要な学力を身につけるための学習を促す。 ①学年会を通じて担任に実力テストの結果を提示し、面談等で活用するようし、事前事後学習の指導を進める。 ②授業中心の学習の大切さを学習・進路だよりなどを通じて生徒に伝える。 《スタディーサポートにおける3教科のDゾーン生徒数が全体の55%以下》
	GTZの向上 を意識した 学習の徹底	仰星コース 進路指導部	○受験に対応できる実力を伸ばさせるとともに、学習の到達目標を明確にするためにベネッセのGTZを上げることに主眼を置いて日々の学習に取り組ませる。常に自己点検させ甘さが出ないように注意喚起を行う。全ての教員で生徒一人一人の成績を共有し、学力向上委員会で検討して、学力向上に有効な指導を適宜行う。進路指導部・担任は定期的(年3回)に進路面談を実施する。 《GTZで『S』または『A』の生徒が各学年50%を超えることを目標とする。》
	進路講話 の充実	仰星コース 進路指導部	○ベネッセや河合塾等による進路説明会を通して社会で求められる人材と能力を把握させ、自分が身につけるべき能力を理解させる。 《実施後のアンケート調査を行い、80%以上の生徒が学習活動への参加を有意義ととらえ、その目的を実感・理解することを目標とする。》
	学習習慣の 定着と 進路目標の 早期設定 進学実績の 向上	進路指導部 特進 アスリート特 進コース	○1年生:学習習慣の定着と学習意欲の継続のため、朝学習を活用して検定受験に向けて取り組ませる。 《1年生特進:全員が漢字検定・数学検定・英語検定を受験する。アスリート特進コースは可能な限り受験する。》 ○2年生:早い段階で各自の得意・苦手科目や学習時間・学習スタイルを把握・振り返らせ、入試を意識した計画を立案させる。 《ベネッセ総合学力テスト(11月)において、国英数総合偏差値50以上が30名。》 ○3年生:学級担任による個人面談の回数・内容を充実させ、志望校合格に向けた「受験プラン」を早期に立てさせる。全員が共通テスト5教科型を受験し、国公立大学出願の可能性を広げる。 《国公立大学合格者10名、難関私立大学合格者10名》
	学力の定着	進路指導部	○日々の授業を大切にするとともに、入試問題や模擬試験の過去問などにも取り組み、学習意欲の向上を図る。 ○特進コースにおいては、特進代表者会議において進路検討会を適宜開催し、生徒の受験の仕方についてコース内で情報を共有し、個々の能力に応じた進路指導を施しながらよりよい進路へと導く。 《3年生国公立大学出願延べ50名 2年生進研模試英国数総合偏差値50以上30名 1年生進研模試平均偏差値48以上》 ○普通コースにおいては進学補習、小論文講座やライティング講座を積極的に受講させるとともに各種検定にも挑戦させる。 《大学・短大合格者延べ200名》
	進学実績の 向上	進路指導部	○特進コース全員が共通テスト5教科型を受験し、国公立大学出願の可能性を広げる。将来的に国公立大学合格30名達成のための礎として国公立大学出願延べ50名をめざす。 ○私大入試の難化を受け、難関私立大学に受験するものには積極的に国公立受験を勧め、 ○学校推薦型選抜、総合型選抜(AO)を積極的に活用し、県内私立大学を中心に合格者の増加を目指す。 《国公立大学合格者10名、難関私立大学合格者10名》 ○普通コースにおいては、コース振興実行委員会との接点を模索しつつ星城独自の探究学習を考えながら、キャリアアッププランを再構築することでより深い学びと進学実績の向上に繋げていく。 ○内部進学者増を目指し、進路相談会などを企画・実施する。 《内部進学者40名》
	第1次就職 内定率の 向上	進路指導部	○生徒の希望と企業の特性や仕事内容とのミスマッチを防ぐために、十分な面談を行い生徒の個性を把握する。 経済状況の陰りも手伝って求人減少が否めないことと、コロナウィルスの影響で相当数の企業が採用を見送るなど危険な現象が予測される。よって、就職への意欲の強いことの確認となお一層の礼節指導を徹底する。 《第1次就職内定率100%》
III	部活動 ガイドラインに 則った 部活動運営	部活動支援	○各クラブの活動計画に基づいて部活動の現状を把握し、運営・管理を徹底する。 ○「星城高等学校部活動ガイドライン」に則った部活動の運営を徹底し、体罰等のない健全な部活動運営を行う。 《部活動における不祥事ゼロ》
	強化部の 入学生徒 増加と 特待生徒の 指導強化	部活動支援	○「スポーツの星城」の推進を図るために、広報部及び各顧問との連携を強化し、強化部の入学生徒増を目指す。 ○人間性と技術面の両面での向上を目指し、奨学生任命式や日々の部活動指導を通じて、「本校が求める強化クラブ・スポーツ奨学生のあるべき姿」を生徒自身に考えさせ、具現化を目指す。 《スポーツにて生徒150名確保》
	部活動運営 の把握 と管理	部活動支援	○各種大会日程や結果を広報し、部活動の活躍を応援する体制作りに努める。 ○全国大会出場に向けての環境作りと支援を行う。 《全国大会出場生徒100名》

重点目標	評価項目	担当	具体的方策《数値目標》
IV	本校主催の交換留学短期留学を継続性のあるものへ導く	庶務・国際交流部	○令和2年度の国際交流プログラムはすべて中止となった。しかしながら、本校の魅力のひとつであることに変わりない。次年度以降の実施を視野に入れながら、建学の精神である「世界観の確立」に向け、学校説明会などでこれまでの取り組みについて情報発信をしていく。 《今年度の数値目標は設定しない》
	広報活動	庶務・国際交流部	○ホームページブログの記事について、年間365件以上の掲載を目指し、学校説明会やパンフレットでは伝えきることのできない、星城高校の日常を伝える基盤を構築する。 さらに、文章や写真だけで無くリアルな情報を届けるために、動画を含めたブログ記事での発信に力を注ぎたい。年間30件の動画配信を目指す。 《年間365件のブログ記事、動画30件を掲載する》
V	英語学習の促進	仰星コース第3学年	○英語の学習を促すため、毎朝語法問題プリントを配布し、演習問題に継続して取り組ませる。 《英検準1級合格者3名以上、2級合格者20名以上》
VI	「外国人市民と高齢市民が輝く新たな架け橋プロジェクト」への参画	仰星コース第2学年	○①「主体性の向上」を志向し、グローバルな視点での学びを実践する。 ②「探究力の向上」を志向し、ローカルな視点での学びを実践する。 ③「協働性の向上」を志向し、外国人・高齢市民との協働による学びを実践する。 ④「発信力の向上」を志向し、課題解決に向けた学びを実践する。 《上記4項目の成果として、「地域協創プロジェクト実践報告書」の作成や「ポスターセッション形式での成果発表」をして、実施後のアンケートの結果、満足いくものであった生徒が80%以上》
	コンソーシアムの活性化	SGL開発部	○新たに豊明市商工会と豊明市青年会議所がコンソーシアムに加わるように依頼し、調整する。各コンソーシアム構成機関とSGL活動の取組に関する協定書を締結する。コンソーシアム会議を年3回開催し、取組状況の共有や課題の協議などを行う。探究学習の進捗状況に応じてSGL主任は各関係機関との協議を継続的に行う。各コンソーシアム構成機関と本校生徒が協働で外国人市民と高齢市民が参加する地域活動を企画開発し、実践する。 《2年生地域協創プロジェクトで全探究班がコンソーシアムとの協働で地域活動を協創、コンソーシアム会議の予定した回数の実施》
	生徒の主体性及び探究力の向上	SGL開発部	○1年生の花溢れる街づくりプロジェクトは10月に各探究班がプロジェクトの企画運営を行うことで生徒の主体性を育む。2年生の地域協創プロジェクトは各探究班とコンソーシアム構成機関がタッグを組んで新たな地域活動の企画開発と実践に取り組むことで、生徒の探究力向上を図る。 《学期ごとに行うルーブリック評価で生徒の主体性と探究力の向上が見られる》